

## 高年女子における積極的生活態度と意識について

——日本、ドイツ、イギリスにおける調査——

古松弥生、横田 京、宮城道子、○櫻井典子 (十文字学園女子短大)

目的：活力ある高齢社会を築くために、高齢者自身が積極的生活態度を持ち、自立して生きがいのある生活をする必要があると思われる。現在積極的生活態度を持って生活していると思われる高齢者は、どのような意識を持って生活しているかを明らかにすることを目的としてアンケート調査を行った。

方法：1994年6月から1995年9月までに、某婦人団体関東地区会員（以下Aと称す）228名、ドイツ、ハイデルベルグ在住者（以下Bと称す）125名、イギリス、ヨーク州在住者（以下Cと称す）89名、合計442名の高年女子についてアンケート調査を行った。比較のために無作為抽出の新座市在住者（以下Dと称す）991名と若年女子115名（以下Eと称す）を資料として用いた。

結果：平均年齢はA：72.9歳、B：74.0歳、C：74.0歳、D：74.7歳である。健康状態はA・Cは健康と答えた人が多い。家族類型で多いのはA：配偶者との同居、B・C：独居、D：配偶者以外の家族と同居である。Aは「ライフワークがある」人が8割近くおり、「自己啓発や学習の活動にいつも参加」する人が4割以上ある。Bは「老人グループへ参加する」人が多い。Cは「宗教活動」「社交的な集い」へ、「いつも参加」する人が多い。積極的生活態度を持つと思われるA・B・C高年女子共通の意識は「目標やかなえたい希望」を持ち「人生の達成感」を味わった経験があり、現在「人に役立つこと」をしていると感じていることである。「目標やかなえたい希望」を持っていることはEの若年女子と同様である。